

第24回

「まごころ」のヒミツを守るために－事業所の移転・リフォームは、 営業秘密管理導入の「絶好のチャンス」です－ 小原アドバイザー

ママ友でスタート

主婦が自宅で起業し「従業員全てが女性」の、その小さな肌着メーカーは、広島市の市街地に建つ古いマンションにありました。経営者というより「控えめで優しいお母さん」といった印象の社長さん、テキパキと実務を切り盛りする主任さんは、それぞれのお子さんが小さい頃、同じ幼稚園に通う「ママ友」だったそうです。

1部屋でスタートした会社は、徐々に業容を拡大し、私たちが初めて訪問した時には、同じマンションの上下階に分散する3戸を使って運営されていました。

優しい素材・着心地の肌着へのこだわり

起業のキッカケは、お子さんが乳児だった時に発症したアトピー性皮膚炎をなんとか快癒させたいとの一念で、評判の良い各地の皮膚科医院を訪ね歩き、漢方処方や、自然食品による食事療法にも熱心に取り組んでいた時に、「木綿が肌に良い」のを知ったことでした。



一口に「木綿」といっても、栽培時に大量の農薬散布による害虫駆除を行ったり、染色プロセスで薬剤処理を経た生地で作られた衣類は、かえって敏感肌には好ましくありません。最終的に行き着いたのは、遺伝子組み換えなどを行わず、良好な労働環境で製造され、“SDGs”にも通じる、フェアトレードのオーガニック・コットンでした。

さらに、下半身の血流やリンパの流れを遮る「締め付け」のない、心までホッとするようなデザインにこだわった結果、「優しい素材と着心地の肌着」が誕生したのです。

社長の夢

競争の激しい業界ですが、クチコミや、医師の後押しなどで、次第にファンも増え、ネット販売を中心に、同社の事業は順調に推移しています。

一方で、社長には、「将来、自社オフィスを様々な女性カルチャーの発信源にしたい」という永年の「夢」がありました。ちょうど私たちの訪問は、事務所・作業所のキャパが限界に達し、社屋の全面リニューアルの必要に迫られ、「夢を現実にする」時期にもあたっていたのです。

「秘密情報の棚卸し」からスタート

「引っ越しを機に、会社の情報資産を使いやすく整理・保管し直して業務効率を上げたい」と考えていた社長には、営業秘密管理の導入は、恰好のテーマに映ったようです。

まず、マンション和室の床の間や押入れの奥にまで、あちこちに分散して置かれていた「大事な書類ファイルの背表紙」や、「サーバ内の重要電子フォルダ名の先頭」に、片っ端から「極秘／社外秘」表示を付し、それらを1つずつ「台帳」に転記することからスタートしました。作業は、業務が繁忙な時にも息切れすることなく、几帳面な取組で、根気良く、着実に進められたのです。

さらに「基本契約の整備」も

同社は、試作品と一部の商品は社内製作ですが、ほとんどが外注生産です。優しい肌着用に厳選されたオーガニック・コットン生地は、縫製が大変難しく、手間がかかり、丁寧な仕事を要求されます。したがって、社長のお眼鏡に適った、高度な縫製技術を有する国内の委託先とはいえ、「優しい素材と着心地の肌着」の実現は、「微に入り細に穿（うが）つ作業指示」なしでは、成り立ちません。

アパレルの世界では、国内外・大小様々なライバルが凌ぎを削っています。したがって、新商品のデザインに加え、自社の縫製ノウハウがぎっしり詰まった「製作指示書」の内容が、うっかり競合他社に漏れ伝わらぬよう、外注縫製工場には厳重に管理してもらう必要があるのです。従来は、「社長どうしの信頼関係」だけが守秘の拠り所だったのを、この機会に弁護士（広島県知財総合支援窓口の配置専門家）の指導を受け、秘密保持条項を含む自社オリジナルの『縫製委託基本契約書』を整備しました。

新社屋でのキックオフミーティング

原爆ドーム至近の市中心部に位置するワンフロアの新社屋は、「大窓から緑の広がる景観を望むショールーム」、「縫製職場」、「事務所」からなり、広々とした明るいショールームは、「カルチャースクール的な講演」や「手作り教室」など、様々なイベントが企画・開催される、女性向けの文化・コミュニティの発信スペースに変身します。完成したばかりのそのサロンを教室にして、全従業員参加の「キックオフミーティング」を開催し、

◇私たちの助言をベースに、新たに制定した「秘密管理規程（社内規則）」

◇主任さん中心に、コツコツと地道な作業を厭わず完成させた「企業秘密台帳」

それぞれの内容説明・確認を目的とした社内研修を行い、同社の営業秘密管理が、いよいよスタートしたのです。

当日は、来賓として中国経済産業局の女性幹部、本活動のキーウーマンであった広島県知財総合支援窓口担当者も同席し、「黒一点」の私が、説明・進行役を務めました。

意識改革がアクションに

この会社では、営業秘密に取り組んだことによる副次効果として「社員の意識改革」が顕著でした。

従来、受注情報は、SNSを利用し従業員の私用スマホ上で共有し運用されていましたが、社員からの「顧客情報保護の観点から問題ではないか？」との提言が契機になって、より安全な他の方法への切り替えが、即断即決されました。また、後日、地元出身の人気タレントを伴ったバラエティ番組クルー訪問の際には、取材場所をショールーム兼サロンに留め、ガラス越しの新商品試作中の縫製現場は、急ぎ「カーテンで遮蔽し」撮影させなかったそうです。

「何を企業秘密として守るか」が、全員に徹底されていたからこそ、咄嗟（とっさ）に、そのような確な判断・アクションができたのでしょう。

社屋移転、改装は最大のチャンス

利益のみを追求するのではなく、従業員わずか8名の企業ながらも「文化への貢献も果したい」という、志の高い、まさに優しいお母さんの「フェアトレード」経営の姿勢は、何か「清々しさ」のようなものを私たちに感じさせ、訪問のたびに「この会社の力になりたい」との思いを強くしました。また、私たちの助言を実直に守ってくださり、決して手を緩めない、真摯な取組姿勢も、とても立派でした。

「社屋の増改築」、「事業所の移転（引っ越し）」などの際には、

◇書類・物品の整理

◇書棚など収納場所の新設・更新

◇レイアウト変更による人・物の動きの効率化

などが、当然期待されるはずです。メーカーであれば、整理・整頓を基本とする「5Sの徹底」にまでは、考えが及ぶでしょうが、従業員の意識改革をも実現できる営業秘密管理を、「ついでに」取り組めてしまえる『絶好のチャンス』でもあります。「データの時代」と言われるこれからは、情報資産である「企業秘密」の重要性が、益々大きくなることが予測されます。引っ越し、増・改築の機会には、ぜひ、営業秘密管理（法的措置も具備した企業秘密管理）の導入をお考えください。

記事公開：2020年 9月18日

会社内の秘密情報の取り扱いについてお困りごとがあれば、[営業秘密支援窓口](#)までご相談ください。

独立行政法人 工業所有権情報・研修館

知財戦略部 エキスパート支援担当

Tel：03-3581-1101（内線3823）

Mail：ip-sr01@inpit.go.jp

